



社会教育便り

令和4年3月
文責 高橋

令和3年度 高知県公民館研究大会（幡多地区大会）

11月17日（水）に県内各地から74名の公民館関係者、社会教育委員、行政関係者等が集まり、令和3年度 高知県公民館研究大会（幡多地区大会）が土佐清水市立中央公民館で開かれました。

この会は、「新型コロナウイルス感染症が流行している中、新しい生活様式が求められる「with コロナ」の考えのもと社会の変化に対応し、地域住民や社会の要請にこたえる公民館づくりを目指して研究協議を行うことにより、公民館活動のさらなる充実・発展を目指す」ことを趣旨として行われました。この研究大会は、高知・高岡・安芸・中央・香美・幡多の6地区が輪番で開催しています。

開会行事の後、歓迎アトラクションとして公民館サークルの土佐清水市バラ抜き節保存会が郷土民謡「バラ抜き節」を披露し会場を盛り上げてくれました。続いて、表彰行事があり、その後、畠中洋行氏に「こどものチカラを地域のチカラに」という演題で基調講演をしていただきました。公演後は三原村教育委員会 濱口裕也氏が「コロナ禍における公民館の運営について」の実践発表がありました。実践発表後は、パネルディスカッションが行われ、コロナ禍の中で公民館活動や社会教育活動を行うことについて、苦労したことや工夫して上手くできたこと、今後やってみたいことなどを、それぞれの立場（公民館長、文化財担当、社会教育担当）から意見を出し合いました。

土佐清水市立中央公民館の職員の皆様をはじめ、幡多地区社会教育連絡協議会の皆様、高知県生涯学習課の皆様には準備から大変お世話になりました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。



令和3年度 高知県公民館研究大会

—歓迎アトラクション—

バラ抜き節保存会の皆さん
郷土民謡「バラ抜き節」（土佐清水市無形文化財）は、古くからカツオ節製造工程の中で唄われてきた作業唄

—表彰行事—

今回の受賞者はのべ17名。多年にわたり精勤し、公民館業務に献身的な努力をされた方や、職務に関して特に模範となる業績があった方に贈られました。受賞者の皆様、おめでとうございます。



—基調講演—

畠中先生から、「とさっ子タウン」や「こうちこどもファンド」の立ち上げや取組より、地域づくりやまちづくりに関連するポイントが話された。

- ・子供が自主的に関わりたくなるプログラムに
- ・地域の中で得意技を持った人を探す
- ・得意技を持った人を足し算し、より豊かにする
- ・子供の保護者、PTAとの繋がりが大切
- ・多様な地域の方が参加できるチャンネルを
その公民館を核とした取組のポイントだけではなく、社会教育を進めていくための大切なことを教えていただいた。



—実践発表—

移設新築され、令和2年3月に開館を迎えた三原村中央公民館。コロナ禍の中での開館であったため、利用者の減少やイベントの中止など、感染状況により公民館の運営は左右される。しかし、厳しい中でも村民の憩いの場所になるよう対策をとりながら地域に情報を発信している。



—パネルディスカッション—

- ・準備をして開催日直前まで悩み中止を決定することがあった。
- ・判断を積み重ね大分分かってきたことがある。
- ・コロナ禍の中、中止ありきではなく、どのようにしたら開催できるか一緒に考える、地域の方々に寄り添える公民館に。



令和3年度 高知県公民館研究大会

パネルディスカッション
「コロナ×社会教育×公民館」

（土佐清水市立中央公民館）